

2013

2013年10月 大谷大学広報第190号 大谷大学通信第77号 編集 大谷大学広報編集委員会



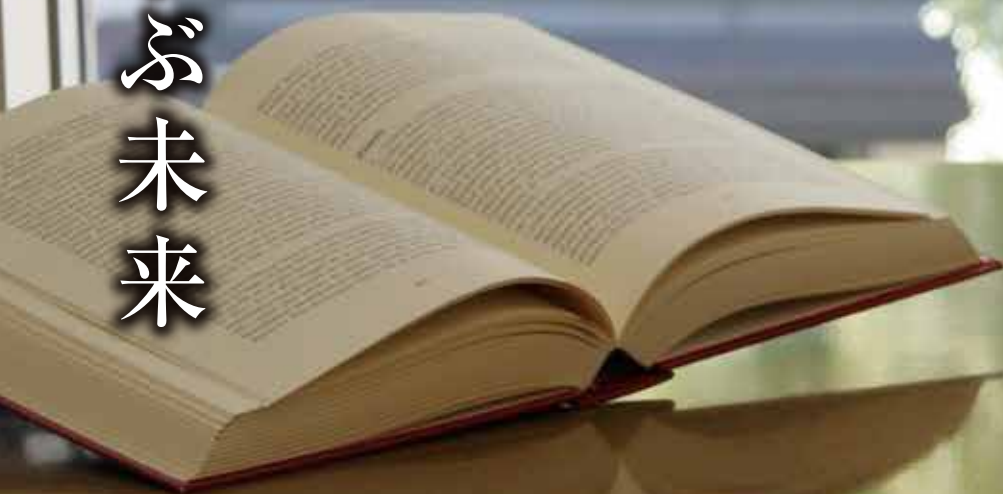
—赤レンガ100周年—

ア ジ ール

# じんげん asile

秋冬号  
2013  
大谷大学広報誌

過去から学ぶ未来





国際文化学科准教授・学生部長 / 鈴木 寿志



人文情報学科第2学年 / 西村 理恵



歴史学科第2学年 / 馬淵 佑基

# Discussion about OTANI 過去から学ぶ未来

赤レンガ100周年記念イベントの一環として開催された学生会による写真展『私たちと尋源館の100年展』。それぞれの時代を映し出す写真や新聞記事、長い歴史を知る人たちの声が、示してくれたものとは何か。開催に関わった学生会のメンバー2人と、大谷大学の「未来」について語り合いました。



## 100年という歴史の重みを実感した写真展

**鈴木** 写真展は第1部の『尋源館と共に歩んだ100年の歴史』と第2部の『建築物から振り返る』の2回行われました。開催にあたってはいろいろ苦労もあつたと思いますが、無事終えていかがでしたか？

**西村** やっぱり素材集めには苦労しました。データが残っていないし、学生会の資料室や図書館に保存されていた資料は欠損している古いものだったり…。

**馬淵** 何より写真に付けるキャッチコピーが一番苦労しました。自分の知らない時代を映した写真なので、当時の風景をどう言葉で表現したらいいのか、なかなか思い浮かばなくて。開催初日間に合わなかったのが反省点です。

**鈴木** でも、苦労の甲斐あって興味深い展示になったと思います。展示の中で何か印象に残った写真はありますか？

**馬淵** 「食堂、銃と学生」と名付けた戦時中の1枚です。寮で食事をしている学生たちが写したのですが、その後ろに銃が並んでいる。「日常」と「非日常」が同居していて、一種異様な光景です。

**西村** 戦時中ということであれば、グラウンドでサツマイモを栽培している写真もインパクトがありました。普段、私たちが何気なく使っている場所が、当時食料を確保するための大切な場所だったんだと思うと感慨深いですね。

**鈴木** そうした戦時中の様子はもちろん、ほとんどの学生が僧侶をめざしてい

た頃の大谷大学や1960年代の学生運動の様子など、1枚の写真からそれぞれの時代の息吹が伝わってくるから不思議です。

**西村** そうですね。ちょうど100年前の1913年に撮影された尋源館の写真を見たときは、改めて歴史ある大学なんだなあと感じたり。

**馬淵** 歴史の重みを感じますね。時代時代に生きてきた多くの学生たちの想いが今につながっていると思うと、言葉にならない感動があります。

## 改めて気づく「今」と取り組むべき課題

**鈴木** 写真展ではいわば「過去」を集めた訳ですが、そこから今の大谷大学との違いも見えてきたのではないのでしょうか？

**馬淵** はい。実は写真展を開催するにあたり昔をよく知る方にお話を伺おうと、大学の近くに長年住み、大谷大学をよく知る近隣の方々にインタビューしました。その時のお話からも昔と今の違いを伺い知ることができました。

**西村** 昔はもつと学生と地域の方々と交流があったのに、それが希薄になってしまったと嘆いておられました。「今の学生さんは大人しすぎる」という言葉がとても印象的でした。

**鈴木** 学内でもそれは感じます。もつと学生が主体となってどんな大学を動かしていけばいいか、「こんな事を学びたい」「もつとこんな施設が欲しい」など、積極的に発言してもいいんじゃないかと思っています。





**馬淵** 僕が感じるのは学科同士の交流が少ないことですね。もっと学科同士をつなぐ催しとか仕掛けがあっても良いかなと。

**西村** 学科内でも交流の場は少ないと感じます。個人個人がバラバラというか。それがとても嫌だと話す友人も少なくありません。

**鈴木** ただ学校に来て単位が取ればそれでいい、というのでは寂しいですよ。

**西村** 仲間と共に過ごす貴重な4年間だからこそ、大谷大学でしかできないことをもっと増やしていきたいんです。

**馬淵** 東日本大震災以降、人とのつながりが改めて見直されています。そして、復興という一つの目標に向けてみんなが団結する姿は、力強く美しいものを感じました。そんな力が、今の大谷大学にも必要なんじゃないかと。大谷大学で過ごした時間を誇りに思えるような機会…それをつくるのが僕たち学生会の役割だと改めて痛感しているところです。

## 学生一人ひとりの力が大学の魅力をつくりだす

**鈴木** そういう意味では、秋に行われる紫明祭(学園祭)は良い機会になります。何か学生会として取り組んでいることはありますか？

**馬淵** 実は学生会のマスケットをつくらうと思っていて、現在全学生に募集をかけているところです。紫明祭までには発表できると思います。結果、どのような

ものが出来るかは分かりませんが、大切にしたいのは学生自らの手で何かをつくりだすという流れなんです。

**西村** 私は学園祭実行委員会の企画を担当しているのですが、紫明祭には学生だけではなく地域の方々にも足を運んでいただき、交流の場にできたらと音楽イベントを企画中です。内容はサプライズにしておきたいのでまだ秘密ですが、楽しみにしていて下さい。

**鈴木** それは楽しみです。やはり学内の活気は学生自らがつくりだすもの。みんなが参加したり一緒に楽しんだりする時間は、学びの時間と同様に大切なものです。

**馬淵** つい先日は大谷大学新聞社の方と協力し合って「大人の自由研究」という催しを行ったんです。鴨川の兩岸をつないで果たして糸電話で会話できるか(笑)、ちよっと笑ってしまいうような企画なんですけど、そういう面白い仕掛けもどんどんやっていけたらと思います。

**西村** そんな楽しい企画が次々と学生の中から生まれてきて、活気ある雰囲気新しい大谷大学の学風につながれば、大学生活はもっともっと楽しくなるでしょうね。

**鈴木** 歴史という過去を振り返ることで、これからの大谷大学が見えてきたと感じますか？

**馬淵** そうですね。学生みんなが自由に意見を交わし、社会に出た時「こんな楽しいことがあった」と、自信を持って語れる大学にしていきたいです。

## キャンパストピックス

## 「イベント開催報告」

2013年5月30日(木)、6月3日(月)

GLOBAL SQUARE  
カフェイベント「世界の街かど」

GLOBAL SQUARE主催イベント「世界の街かど」をBig Valley Caféにて開催しました。このイベントは、外国人ネイティブと、お茶を楽しみながら外国語で気軽に会話をすることを目的としたものです。5月30日(木)はフランス語をテーマとした「世界の街かど」Café français」、6月3日(月)は英語をテーマとした「世界の街かど」English Tea Party」を開催しました。

イベントに参加した学生は、「フランス語を勉強していても実際フランス人の方と話す機会はなかなかないので、このイベントはとても楽しみでした。話すだけでなく様々なフランスの話なども聞けてとても有意義な時間が過ごせました。ぜひまた開催してほしいです。」と話してくれました。

GLOBAL SQUAREでは、今後もこのような外国語会話に関するイベントを開催する予定です。興味のある本学学生はぜひ参加してください。



2013年6月26日(水)

課外教育行事(異文化との出会い)  
和楽器から国際楽器へ  
― 箏と尺八の魅力にふれる ―

課外教育行事(異文化との出会い)は日本や他国の文化を幅広く紹介し、異文化理解の一助となることを目的として開催しています。今回は、本学教授のブレストン・ハウザー氏を中心とした箏と尺八の演奏を行いました。

尺八琴古流師範でもあるハウザー氏が虚無僧姿で登場、演奏が開始されました。その後、ハウザー氏より、尺八の種類や曲の意味について説明が行われました。野田弥生氏(生田流箏曲演奏家)の箏との協奏もありました。

続いて箏曲部、本学尺八部を永年ご指導いただいています雲井花山氏(都山流尺八楽会大師範)と尺八部が演奏し、日ごろの練習成果を披露しました。学生たちには、いつもと違う会場での演奏ということもあり、緊張感のある演奏会になったようです。

最後にハウザー氏は、演奏曲の説明を交えながら古典本曲を演奏し、再び野田氏との協奏による「春の海」で公演会は終了いたしました。

2013年6月28日(金)

## 大谷大学奨学生証書授与式

6月の御命日勤行・講話に引き続き、「大谷大学奨学生証書授与式」を講堂にて執り行いました。

本学では、その勉学と人間育成を奨励し、前途有為な人物を社会に送り出すことを目的として、人物・学業成績が特に優秀な学生に対し、学費の一部として育英奨学金を給付しています。

文学部、短期大学部、大学院修士課程・博士後期課程の育英奨学生、大谷大学大学院博士後期課程外国人特別奨学生に採用された学生に対し、奨学生証書が授与されました。

草野顕之学長から、「この育英奨学生のシステムは、他の奨学金制度とは趣を異にしており、勉学と人物の大成を願い、大学からお渡ししている奨学金であります。その勉学のますますの進展を期待すると同時に、本学の建学の精神に学び素晴らしい人物になっていただきたい」と奨学金に込められた願いを伝えるとともに、奨学生に激励のメッセージが送られました。



## 2013年度 春季大会結果

※入賞者の学年は、大会時のものです。

## バレーボール部

- 関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦(男子)  
8部1位

## バドミントン部

- 関西学生バドミントン春季リーグ大会  
男子6部Dブロック2位  
女子5部Aブロック1位

## 跆拳道部

- 第11回W.A.T.Aオープンテコンドー選手権大会  
準優勝 松田 一範 / 社会学科第2学年  
3位 南木 心 / 真宗学科第4学年

## 剣道部

- 第7回京都市実業剣道連盟学生親善剣道大会  
団体戦(男子) Cリーグ3位  
団体戦(女子) Bリーグ4位
- 第55回京滋学生剣道大会  
団体戦 ベスト8

## バスケットボール部

- 第49回春季京都学生バスケットボール選手権大会  
男子Aブロック3位(予選敗退)  
女子Aブロック2位(予選敗退)

## ソフトテニス部

- 関西学生ソフトテニス春季リーグ戦(男子)  
6部Cブロック2位

## 卓球部

- 春季関西学生卓球リーグ戦(男子)  
4部Cブロック2位

## 硬式野球部

- 平成25年度京滋大学野球春季リーグ戦  
1部6位
- 第21回全京都大学野球トーナメント大会  
2回戦敗退

## サッカー部

- 第42回関西学生サッカー選手権大会  
2回戦敗退
- 第91回関西学生サッカーリーグ(前期)  
3部Aブロック3位



2013年7月12日(金)

## 石間奨学金奨学生証書授与式

「石間奨学金奨学生証書授与式」が  
尋源講堂にて執り行われました。

今年度は、16名の出願者があり、選考のうえ村形舞さん(歴史学科第4学年)、藤岡栞理さん(文学科第4学年)、森翔輝さん(教育・心理学科第4学年)が採用されました。

2007年度から始まった当奨学金は、石間裕氏からの寄付金を財源としており、学費の支弁が困難にもかかわらず、大谷大学での学びに強い意欲をもちながら学生生活を送っている学生に対して給付されるものです。

奨学生証書授与式では、草野顕之学長より奨学生証書が授与され、創設者の石間氏からは記念品が贈呈されました。

授与式終了後の懇談会において石間氏は、卒業後について「社会に出て生きていくことは非常に厳しいかもしれない。しかし私とあなたたちは、よき友人でありライバルとして共に生きていく。今後、すばらしい人間に成長されることを願っている」と奨学生を激励されました。



## 学科の取り組み

幼児教育保育科

2013年5月25日(土)、26日(日)

大津市主催

子育て支援オペレッタに

幼児教育保育科学生が出演



5月25日(土)大津市瀬田公民館、26日(日)大津市仰木の里市民センターにて、本学短期大学の幼児教育保育科学生有志による親子向け子育て支援オペレッタが開催されました。

幼児教育保育科学生有志は瀬田公民館で「シンデレラ」「赤ずきん」、仰木の里市民センターで「大きななぐさ」「チューリップおばあさん」の公演を行いました。オペレッタの他にもオリジナルの手遊びを披露し、子どもたちは身体全体でリズムを感じながら楽しんでいました。

オペレッタ公演に参加した平塚美江さん(幼児教育保育科第2学年)は、「たくさんの方が集まってくださり、すごく嬉しかったです。舞台と子どもたちの距離が近くとても緊張しましたが、子どもたちの笑顔を見ると、反対に私達の方が元気をもらうことができました。その元気と喜びを糧にして、これからも様々なことに挑戦していきたいです。」と話してくれました。

教育・心理学科

## ◆おおたにキッズキャンパス◆

教育・心理学科では、将来、小学校や幼稚園の教員を目指す学生が中心となり、地域交流や施設開放を目的にさまざまな講座やイベントを「おおたにキッズキャンパス」として開催しています。

2013年7月19日(金)

## 「博物館についてみよう!」

今回は、大谷大学博物館で開催されている特別展「伊能忠敬の日本図」に本学近隣の紫明小学校・楽只小学校を招待し、大学院修士課程教育・心理学専攻の3名の学生が展示物を解説しました。

参加した小学生は、習ったばかりの伊能図について、持参した教科書と見比べながら、実物の大きさや精巧さに驚いていました。また現在の日本地図と比較しながら、大阪湾や京都南部の巨椋池等が埋め立てられ、どのように変化したのかを確認しながら、地図に見入っていました。大学院生は、「大日本沿海輿地全図」を中心に、各自が担当する場所ので熱心に説明していました。



2013年8月19日(月)～8月30日(金)

## 「赤レンガ100周年 絵画展」

本学近隣の紫明小学校と連携し、7月2・11・16日に、本学のシンボルである尋源館周辺で写生大会を実施しました。参加した小学6年生44名は、教育・心理学科井川ゼミ生・学生有志のサポートのもと、それぞれの視点から色鮮やかに尋源館を表現してくれました。また、この写生大会で描かれた作品を響流館ギャラリーに展示する絵画展を開催しました。

絵画展初日には、優秀作品に選ばれた児童に来場いただき、表彰式を開催しました。学長賞をはじめ各賞を受賞した児童は、緊張しつつも晴れがましい表情で、草野学長、岩淵教職支援センター長から賞状と副賞の図書カードを受け取りました。



## 人事情報

### ◆依頼退職

〔事務職員〕

中尾 達子(教育研究支援部)

2013年6月30日付

## ■ 学科の取り組み Otプロジェクト

人文情報学科

**撮影からBGMまでトータルでプロデュース  
全て学生たちが手作りで映像作品を作り上げています！**

人文情報学科の授業「デスクトップミュージック演習I」をきっかけとして、学科の枠をこえたメンバーで「Penki Factory」が立ち上がりました。映像編集、楽器演奏、録音編集に興味のある学生が関わっており、映像撮影から編集、BGMの作詞、作曲、演奏までそのすべてが学生による手作りの作品です。

この「Penki Factory」の制作の一環として、「Ot Project」という映像制作プロジェクトがスタートしました。学生はもちろんのこと、学長をはじめとした教職員、守衛、学内食堂スタッフ等、すべての大谷大学に関わる人たちの、「Ot」というシンブルなコピーを動作とともに収録し、編集で一体感、谷大愛を学内メッセージとして発信しています。

このプロジェクトに携わったPenki



ただです。

映像作品は大学ホームページでご覧いただけます。

## ■ 学科の取り組み 「JINGEN100」プロジェクト

人文情報学科

**今年で100周年を迎える尋源館をさまざまな角度から撮影、  
ひとつの映像作品を作り上げていきます。**

人文情報学科メディアクリエーターコースの松川ゼミでは、大谷大学の象徴である尋源館の魅力を生目線の映像で伝える「JINGEN100」プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトでは、尋源館をさまざまな角度から撮影し、情報メディアの観点からその魅力を伝えるため、タイムラプス（撮影した静止画をつなげて動画のように見せる方法）という手法を使った映像作品を制作しました。

四季や時間だけでなく、撮影場所や角度にこだわって尋源館の美しさを表現するため、中には過酷な環境での撮影もありました。雪の残る尋源館の屋根や日の出を撮影するため深夜から早朝にかけて博綜館の屋上で撮影したこ



ともあれば、真夏のキャンパスで一日中蚊にさされながら撮影したこともあり。また、タイムラプスという手法上、静止画を300枚撮っても、つなげて動画にするとたったの10秒にしかならず、撮影中に人が入ったり、つなぎ方が悪いと何度も撮り直しになってしまいます。こうした撮影を半年以上何回も積み重ねていき、最終的に6分弱の映像作品を完成させました。

このプロジェクトで制作した映像作品は、10月12日(土)に執り行われる「開学記念式典」にて、赤レンガ100周年記念事業のひとつとして発表する予定です。また、大学ホームページやYouTube大谷大学チャンネルでも公開いたしますので、ぜひご覧ください。



# 紫明祭2013

多くの笑顔や思い出が生まれる紫明祭。今年も最高の思い出をつくろう!



学園祭実行委員会委員長  
国際文化学科 第3学年  
江湖 久晃

今年のテーマは

## 笑響祭「轍」

今年も大谷大学に、活気溢れる季節、紫明祭の季節がやってきます。

この紫明祭に向け、残り少ない期間ですが、実行委員一同、少しでも参加者の方々、来場者の方々に楽しんでいただけるように日々努力しております。

2013年度大谷大学学園祭「紫明祭」のテーマは「笑響祭「轍」」です。

この「笑響祭」というテーマには、紫明祭に関わる一人ひとりが自然と笑顔になり、その笑顔が広がっていく祭にしたいという思いをこめました。今年度は、赤レンガ100周年を迎えます。今までこの場所で100年間、学生や関係者の方々を見守ってきた尋源館の歴史を再確認し、学生や教職員だけでなく一般の来場者も巻き込んで、全員が

楽しんでいただける紫明祭にしたいと思えます。

また、サブテーマを「轍」としたのは、昨年度は地域のお祭りに参加したり、地域の方々に、紫明祭に参加していただくという新たなことに挑戦した年でした。今年度はその跡の上に、地域とのより深い繋がりがや、また新たな繋がりをプラスして来年にも再来年にも続く紫明祭にしたいと願ったからです。

紫明祭に来ていただいた方の数だけ笑顔があり、心に残る紫明祭としますので、是非とも多数の方のご来場お待ちしております！  
みんなで、最高の笑顔と思い出を作きましょう！

イベントスケジュール

### プロアーティスト コンサート

時間 16:00 ▶ 17:00 (予定)

「東京カラコロン」によるコンサートが開催されます。ぜひ、お楽しみに!

### 後夜祭

時間 18:15 ▶ 19:00

2013年度紫明祭の幕引きとして、展示・模擬店の表彰や思い出ビデオ・エンドロール上映を予定。

11月  
10  
(sun)



### 前夜祭

「紫風伝来」

時間 17:00 ▶ 19:30

2013年度紫明祭を盛り上げるための前哨戦として、ダンスパフォーマンス、ビンゴ大会等を企画。

11月  
8  
(fri)



### 内部・外部 音楽イベント

「music ties ～つながり～」

時間 16:30 ▶ 19:30

学内団体、学外団体による音楽パフォーマンスを披露。

11月  
9  
(sat)



Twitterアカウント @shimeisai

# ライブ

# ENJOY!



赤レンガ100周年記念行事  
「対談～屏風『親鸞』を語り合おう!」  
について実行委員の三池さん、  
三浦さんにインタビューしました!

**まず、対談のテーマや  
内容についてお聞かせください。**

**三池** ご存知の方も多いと思いますが、2011年に「宗祖親鸞聖人750回御遠忌」の記念として、マンガ家・井上雄彦さんが屏風『親鸞』を制作されました。対談では企画当初から関わってこられた東本願寺の近松誉さんをお招きして、井上さんがどんな思いや苦労を経て親鸞を描かれたのかをお話いただき、そして僕たちと語り合うというものです。

**三浦** 制作にあたり、井上さんは親鸞の修行の地・比叡山や流罪となった新潟など足跡をたどる旅に出られたそうですが、近松さんはそれに同行された方。完成に至るまでの知られざるエピソードなど、とても興味深い内容になると思います。

**三池** 何より親鸞の思想は、大谷大学の建学の理念であり、「人間学」の根源をなすもの。赤レンガ100周年記念イベントにふさわしいテーマですし、皆さんに楽しんでいただける内容になるよう、実行委員5名で取り組んでいるところです。

**この対談を通して  
聴く人に何を伝えたいですか?**

**三浦** 制作者であるマンガ家・井上さんの思いや制作秘話を通して、親鸞という激動の時代に生きた一人の人間の生き様や精神を伝えたいですね。僕たちが普段生活するなかで、ちょっと違った視点で物事を見る機会は限られていると思うんです。「今、この時代に親鸞が生きていたらどう世の中と向き合っただろう」と、考えてみるのも面白いかもしれません。

**三池** 親鸞が生きた時代はいくさや飢饉、身分の違いなど、非常に厳しい時代。その中で、民衆と生き、一緒に立ち上がろうとした「共に」という親鸞の精神は、時代を超えて今にも通じると思うんです。

**三浦** 奇しくも絵が完成した翌日に起こった東日本大震災も、人とのつながりや人の絆を見つめ直す大きな機会になりました。

**三池** 競争社会の中で「自分さえ良ければ」となりがちな今だからこそ、親鸞の「共に」という精神を皆さんと学んでいただけたら有難いですね。

**では最後に、対談企画にかける  
意気込みをお聞かせください。**

**三浦** とにかくたくさんの方に聴きにきていただきたいですし、誰もが分かりやすい楽しい内容にしていきたいと思って



います。

**三池** 10月に行われる開学記念式典やオープンキャンパスでも、東本願寺から屏風をお借りして展示します。実際に描かれた親鸞像を見たら、それぞれに感じる、思うことがあると思います。その上で近松さんとの対談を聴いていただくと、より面白いかもしれません。

**三浦** 親鸞の屏風絵を大谷大学で展示するという事は、ただ有名なマンガ家の作品を展示する以上に、「学び」という意味でも非常に貴重な機会になると思うんです。

**三池** 学びというのは歴史や生涯などを机上で学ぶことだけではなく、こうしたイベントに積極的に参加することも学びのひとつになるはずですよ。

**三浦** だからこそ、たくさんの方に足を運んでほしいです。そして、時を経て普遍に生き続ける親鸞の精神を、一緒に見て、聴いて、感じていただきたいです。

入場無料!  
皆さんぜひ  
お越しください!



「対談～屏風『親鸞』を語り合おう!」実行委員会の皆さん

写真左より 戸次 輝(真宗学科第4学年)・岩崎 径(真宗学科第4学年)・三池 大地(真宗学科第4学年)・  
三浦 達也(真宗学科第4学年)・本多 敬成(真宗学科第3学年)

～赤レンガ100周年記念行事～ 「対談～屏風『親鸞』を語り合おう!」



屏風『親鸞』/左隻

日時: 2013年11月10日(日) 13:00～14:40【開場12:30】

対談者: 真宗大谷派宗務所(東本願寺)財務部次長 近松 誉氏  
真宗学科 第4学年 戸次 輝(司会進行役)

第3学年 岩崎 径  
本多 敬成

会場: 響流館メディアホール

お問い合わせ: 企画課【075-411-8115】

後援: 真宗大谷派(東本願寺)

備考: 10月12日(土)・13日(日)・11月9日(土)・10日(日)【全日程10:00～17:30】は、井上雄彦氏作・屏風『親鸞』の特別展示会を響流館2階で開催しています。なお、井上雄彦氏ご本人は来られません。



今回の紹介は…

# 赤レンガ100周年記念イベント

2013年11月、現在の地(京都市北区)に移転して100年を迎える大谷大学。  
今回は、その100周年を記念して行われるさまざまなイベントをご紹介します!



## 写真展

### 「本館から尋源館へ—地域と歩んできた100年—」

尋源館(旧本館)は、キャンパス内の学園整備の一環として木造から鉄筋への改修を受け、両翼部分が切り取られることになりましたが、本学のシンボルとして100年の歴史を刻んできています。

今回の写真展では、その100年の歴史を地域と共に歩んできた大学として、学園祭などの行事や地域との交流の様子も交えながら昔の写真や学園祭のパンフレットなどで紹介していきます。

この機会に、これまでの歴史を振り返り、これからの未来に向けて語り合う場としてみてはいかがでしょうか。

また、北大路商店街との共催により、北大路商店街のアーケードに、商店街の昔の写真を展示することで大学・学生・地域がひとつとなった写真展として開催いたします。



会 期 : 2013年10月12日(土)~11月7日(木)  
10:00~17:00  
休 館 日 : 日曜日(ただし、10/13は開館)  
会 場 : 響流館ギャラリー、北大路商店街  
主 催 : 大谷大学  
共 催 : 北大路商店街、学園祭実行委員会  
お問い合わせ: 企画課【075-411-8115】

## そのイベント

### 秋季企画展Ⅱ 「赤レンガの学舎」

「『真宗大学』から『真宗大谷大学』へ」「青写真にみる赤レンガ」「大谷大学の設立と『樹立の精神』」の3つのテーマで資料を紹介します。

会 期: 2013年10月12日(土)~11月28日(木)  
10:00~17:00 ※入館は閉館30分前まで

会 場: 大谷大学博物館

休館日: 日・月曜日  
(ただし、10/13、11/24、11/25は開館)

観覧料: 一般・大学生 / 200円  
小・中・高校生 / 無料

備 考:

- (1) 本館には駐車場がありませんので公共交通機関をご利用ください。
- (2) 下記の方々は、無料とさせていただきます。受付にてお申し出ください。
  - 本学学生、同窓生、教職員
  - 下記の手帳・証明書をご提示いただける方
    - ・ 障がい者手帳をお持ちの方および介助者の方(1名まで)
    - ・ 70歳以上の方

### 赤レンガ100周年 記念講演会

本学が、京都小山の現在地に移転し、その時に建てられた赤レンガ造本館(現 尋源館)が、築100年を迎えることを記念して、大学主催による記念講演会を開催いたします。

日 時: 2013年11月9日(土)16:20~18:10

会 場: 本学講堂

議題 / 講師:  
「清沢先生を父とし  
南条先生を母とする」大学  
/ 水島 見一 学監・副学長

変わるものと変わらないもの —  
<大学>の未来  
/ 鷲田 清一 教授

### 赤レンガ100周年記念 オリジナルグッズ

※記念グッズは、全て博物館受付にて販売しています。

#### ● 記念コーヒーマグ

昔の学生が飲んでいた味をイメージしたオリジナルブレンドです。パッケージの絵は、紫明小学校の協力で開催した尋源館の写生大会において学長賞を受賞した作品です。



#### ● 図書カード

大学オリジナル図書カード(500円・1,000円)を作成しました。500円は現在の尋源館、1,000円は大正2年当時の赤レンガ本館と地図をデザインしています。数量限定です。



#### ● トートバッグ

赤レンガ100周年のロゴマークで使われた尋源館を用いてデザインしました。数量限定です。



詳しい情報は…  
大谷大学ホームページ

<http://www.otani.ac.jp/akarenga100>

## 現在の就職状況

2008年のリーマンショック以降、長く続いていた経済不況が今年に入ってようやく好転の兆しを見せはじめ、学生を取り巻く就職環境も若干好転していると報道されています。

本年度の大学新卒者の有効求人倍率(学生一人あたりの求人件数)は、1.28倍であり、一昨年の1.23倍、昨年の1.27倍から上昇していますが、リーマン・ショック前の水準(2.14倍)には戻っていません。また、企業の採用意欲は高まりつつありますが、採用意欲が高くても求める人物像の学生と出会えず、企業にとっては「採用難の時代」とも言われています。いわゆる「厳選採用」の傾向は依然続いており、学生にとって厳しい就職環境に変わりありません。

一方、学生の就職活動においては、1997年の「就職協定」廃止後、大学側の「申合せ」と企業側の「倫理憲章」により秩序が維持されていますが、今春卒業した学生の活動時より「倫理憲章」が見直されました。具体的には、企業による採用広報活動の開始が、卒業前年度の12月1日と2ヶ月遅くなりました。しかし、選考は、従来通りの4月1日開始であったため、企業と出会う場である就職フェアや会社説明会の開催、応募書類(エントリーシート、履歴書)の提出などが短期間に集中し、業界や企業研究が不十分なまま、選考に臨まざるを得なかった状況でありまし

た。また、近年の選考では、面接が重視される傾向にあり、企業による採用活動期間の短縮のため、面接前の書類選考や筆記試験のハードルが高くなっています。

この厳しい就職環境は、今後景気が回復しても、すぐに大きく好転するとは考えにくく、特に厳選採用の傾向は継続すると予測されます。また、就職環境が好転しているという報道を鵜呑みにして、就職活動を楽観視し十分な準備をせずに就職活動に臨む学生が多く見受けられますが、引き続き万全の準備が必要です。

できるだけ早期に卒業後の進路を意識すること、また学業だけでなく、クラブやボランティア、アルバイトなどの課外活動にも積極的に取り組み、学生生活を充実させることにより、社会人として求められる「基礎学力」「コミュニケーション力」「主体性」「協調性」を養うことが肝要です。

### ※2016年3月卒業予定者以降の就職活動スケジュール

学業に専念する時間の確保を目的とする政府の要請を受けて、「倫理憲章」の見直しが進められています。「倫理憲章」を「採用選考に関する指針」と名称変更し、企業による採用広報活動の開始を卒業前年度の3月、選考開始を卒業年度の8月と改められます。

## 就職支援について

キャリアセンターでは、就職に限らず、個々の学生が納得のいく進路決定ができるよう個別相談を中心として、各種ガイダンスや講習など、さまざまな支援プログラムを実施しています。

今年度の就職支援としては、卒業前年度の前期に、2回の就職ガイダンスのほか、職業適性検査や筆記試験の対策を実施し、夏期休暇明けの9月以降は履歴書(「私の強み」「学生時代に力を注いだこと」)作成や面接対策、業界職種研究に関するプログラムを通して、12月1日からの本格的な就職活動に向けて準備を進めていきます。

### 【各種ガイダンス・講座】

- ・就職ガイダンス「年5回」
- ・筆記試験模試「6、10月」
- ・筆記試験対策講座「8、11、2月」
- ・業界研究講座「10月」
- ・ビジネススマイル講座「10月」
- ・面接対策ガイダンス「11月」
- ・面接実践講座「12月11月」
- ・就職活動報告会「11月」

など

### 【各種講習】

- ・公務員受験対策講習
- ・秘書検定技能2級対応ビジネススマイル講座
- ・販売士受験対策講習
- ・TOEICレベルアップ講習
- ・日本語検定受験対策講習
- ・マイクソフトオフィス講習
- ・介護職員初任者研修
- ・簿記受験対策講習
- ・社会福祉士国家試験受験対策講習

など

## 保護者の皆さまへ

厳しい就職環境の中、学生諸君は初めての経験で不安や戸惑いから大きなストレスを抱えて活動することとなるため、特に保護者からの励ましが大きな力となります。例年、就職活動を終えた学生から「迷っている時に背中を押してくれた」「辛い時にじっくり話を聞き、社会人としてアドバイスをしてくれた」という声が聞かれるように、学生にとって保護者は「ホッとできる安心できる存在」です。自らの夢に向かうとともに、自立をめざす学生諸君をご家庭でもサポートしていただければ幸いです。



個別面談の様子



# 2012(平成24)年度卒業生進路決定状況

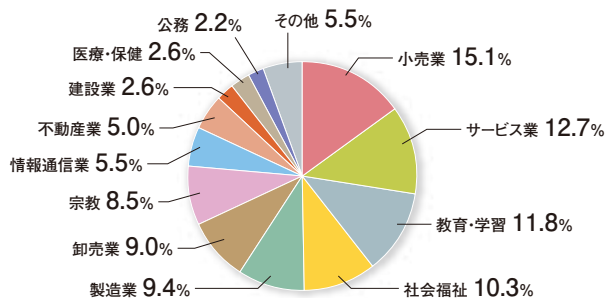
## ■ 文学部

卒業生	就職希望		進学		聴講生 科目等	一時的な 仕事に 就いた者	左記以外
	就職者	就職活動 継続	大学院	大学短大 専修学校			
777	458	67	45	23	20	82	82

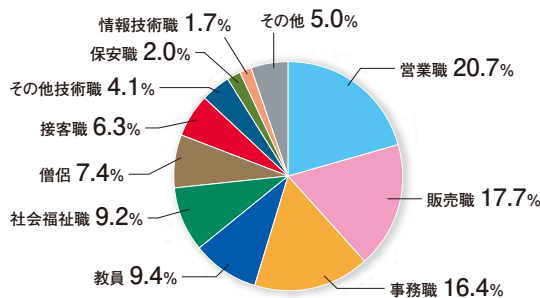
内定率 = $\frac{\text{就職者}}{\text{就職希望者}}$	進路決定率 = $\frac{\text{進路決定者}}{\text{卒業生}}$
87.2%	67.7%

※進路決定者=就職者+進学者

## ■ 業種別進路決定状況



## ■ 職種別進路決定状況



## ■ 2012年度就職先抜粋(文学部)

<b>建設業</b> (株)ミツワ	<b>運輸業</b> (株)関西丸和ロジスティクス 滋賀交通(株) 西日本旅客鉄道(株)	<b>小売業</b> (株)アルペン (株)オートボックスセブン (株)オンリー (株)紀伊國屋書店 梅田本店 (株)キリン堂 (株)コスモス薬品 (株)コメリ 島村楽器(株) (株)ジェイアール西日本伊勢丹 (株)セブンイレブン・ジャパン (株)ハートフレンド (スーパープレスコ) はるやま商事(株) (株)平和堂 (株)マツモト (株)ヨドバシカメラ (株)ロマンライフ	<b>金融・保険業</b> 旭川信用金庫 (株)かんぽ生命保険 (日本郵政グループ) 京都市市町村職員共済組合	<b>教育・学習</b> 大谷大学・ 大谷大学短期大学部 彦根総合高等学校 京都明徳高等学校 光華小学校 大谷幼稚園 かもがわ幼稚園 聖母学院幼稚園 むらさき幼稚園 京都府教育庁 千葉県教育庁 宇治市教育委員会 大津市教育委員会 京都市教育委員会 城陽市教育委員会 高槻市教育委員会 津市教育委員会 長浜市教育委員会 枚方市教育委員会	<b>サービス業</b> 京都中央農業協同組合 四季(株)(劇団四季) 日本郵便(株) 東びわこ農業協同組合 (JA東びわこ) (株)プライグルハウス チュチュ (株)ユー・エス・ジェイ (公財)愛媛県埋蔵文化センター 兵庫県立歴史博物館
<b>製造業</b> (株)ゴティバジャパン 佐川印刷(株) (株)鶴屋吉信 日本輸送機(株) フランスベッド(株) (株)ミル総本社	<b>卸売業</b> (株)カワタキコーポレーション 京都青果合同(株) (株)京都西川 京都トヨタ自動車(株) 滋賀ダイハツ販売(株) シンコール(株) 塚喜商事(株) トーヨーグループ ニシムラ(株) プリヂストーンタイヤ 北大阪販売(株) (株)ヨシダ	<b>金融・保険業</b> (株)かんぽ生命保険 (日本郵政グループ) 京都市市町村職員共済組合	<b>不動産業</b> (株)エイブル (株)京都ライフ (株)フラット・エージェンシー	<b>福祉・医療</b> (財)京都地域医療学際研究所 がくさい (社福)青祥会 (社福)七野会 (社福)終野福祉会 (株)ファーマシイ 洛和会ヘルスケアシステム	<b>宗教</b> 真宗大谷派宗務所 真宗大谷派難波別院
<b>情報通信業</b> (株)ダイアモンドテレコム TIS(株) データプロセス(株)					<b>国家公務・地方公務</b> 防衛省(陸・海・空) 京都府警察本部 栗東市役所

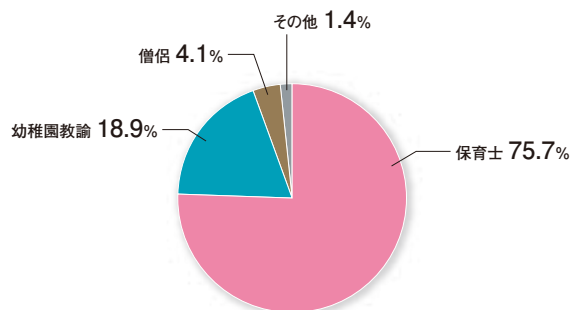
## ■ 短期大学部

卒業生	就職希望		進学		聴講生 科目等	一時的な 仕事に 就いた者	左記以外
	就職者	就職活動 継続	編入	短大 専修学校			
104	74	0	14	6	3	3	4

内定率 = $\frac{\text{就職者}}{\text{就職希望者}}$	進路決定率 = $\frac{\text{進路決定者}}{\text{卒業生}}$
100.0%	90.4%

※進路決定者=就職者+進学者

## ■ 職種別進路決定状況



## ■ 2012年度就職先抜粋(短期大学部)

<b>保育所</b> 安朱保育園 稲荷保育園 岩倉こひつじ保育園 牛ヶ瀬保育園 海印寺保育園・友岡保育園 桂東保育園	カナリヤ保育園 このしま保育園 聖徳保育園 せんだん保育園 大徳寺保育園 長浜市職員(保育士)	羽東師保育園 花園保育園 深草保育園 伏見幼児園 本福寺保育園 ゆりかご保育園	洛陽保育園 陵ヶ岡保育園	<b>幼稚園</b> 小野幼稚園 錦鏡幼稚園 くろたに幼稚園 甲賀市役所(幼稚園教諭) 紫明幼稚園 聖ルカ幼稚園	田辺市(幼稚園教諭) 中央幼稚園 本願寺中央幼稚園 みどり幼稚園 山田敬愛幼稚園 若竹幼稚園	<b>児童養護施設</b> 衣笠児童館 平安養育院むくの木学園	<b>宗教</b> 真宗大谷派宗務所
--	--	--	-----------------	--	---	---------------------------------------	-----------------------

# Our teacher 私たちの先生

的確な意見やアドバイスで、歴史がもっと好きに! 学ぶことがもっと楽しく!



歴史学科 教授  
齋藤 望

1952年静岡県生まれ。和光大学人文学部芸術学科卒業。大谷大学大学院文学研究科修士課程仏教文化専攻修了。文学修士。1983年彦根市教育委員会技師となり博物館建設準備にあたる。彦根城博物館学芸員として勤務し、2008年学芸史料課長。2009年大谷大学文学部に着任。2010年大谷大学博物館長に就任し、現在に至る。専門/日本美術史



紹介してくれた歴史学科・歴史ミュージアムコース 齋藤ゼミ(第3・4学年)の皆さん

齋藤ゼミでの学びの基本は、「作品」を通して美術史を中心とした日本の文化史を考察していくというもの。作品の分野は、美術だけでなくとどまらず、時代も古代から近代と広範囲です。そして、その中から学生一人ひとりが自分の好きな研究テーマを自由に選ぶというの、大きな特徴のひとつ。ですから、毎回ゼミの発表では、浮世絵や着物、建造物、障壁画など、多種多様なテーマが飛び交っているのですが、それぞれの的確な意見やアドバイスをくださるのが、博識な齋藤先生です。

一見バラバラのように思えるそれぞれの研究テーマが、先生のアドバイスによって意外な共通項やつながりを発見することも多くて、その発見から新しい視点が生まれ、自分自身の研究を違った角度から考察できたり理論を深められたりと、学ぶことがどんどん楽しくなっていくから不思議。仲間の研究も興味深く聞くことができるので、知識も広がって本当に面白いですね。



また、研究発表の機会が多く、レジュメやレポート作成が多いのも特徴ですが、これは、「自分の考えを組み立て、人に伝える力を身に付けてほしい」という齋藤先生の想いゆえ。実際、ここで身に付けた力は、卒論制作はもちろん就活の場でも発揮できるし、社会に出てもきつと役立つと思います。

私たち学生一人ひとりの個性や興味を大切に育ててくれる、厳しくも穏やかで、とても優しい先生です。



## 先生から学生たちへのメッセージ

ゼミで扱うのは、日本の造形作品。まあ、何でもあり。肝要なのは、「ほんもの」をしっかり見ることです。それまで気づかなかった世界が見えてきます。楽しい発見をすると、眼が喜びます。眼にも栄養が必要なので、感性を磨くためには、それなりに、美味しいものを食べ、すてきな音楽を聴き、オシャレをする姿勢も大事です。でも「いいね」だけでは、わかったことになりません。なぜこんなに面白いのだろう、どんな意味があるのだろう。それを言葉で説明しなくてはならない。関連資料を集め、史料を読み、先行研究を精読し、自分自身で考えて、「わたし」の美術史を作り上げて下さい。まずは好奇心。そしてとことん追求する姿勢。でも、いくら調べても、さっぱり見えてこないこともあるのですよ。





### ① グランドデザイン推進体制の整備

2011年10月13日開学記念式典において「グランドデザイン」として2021年度までの10年間の方針と行動計画を表明しました。その初年度となる2012年度は、グランドデザインを推進するうえで基盤となる組織体制を整備しました。

その第一として「教育推進室」を整備しました。教育推進室は、大学教育の骨格をなす、学位授与、教育課程、学生受け入れに関する方針、教育課程と教育方法の検証と改善など、今後の大学の教育力の強化推進に取り組み機関としてスタートすることとなります。

第二に、執行部体制の見直しを行いました。新執行部体制では、担当副学長制を採り入れ、学長、学監、担当副学長からなる「学長会」を新設するとともに、学長会メンバーに他の部科長と事務部長を構成員に加えた「大学運営会議」を新設することとなりました。これらの会議体を大学の意思決定機関と位置付けることにより、迅速な意思決定と決定プロセスの透明化を実現することとなります。また、教育職員、事務職員の協働体制が確立されることにより、グランドデザインで示した行動計画を強力に推進されることとなります。

### ② 教育及び学生支援に関する事業

#### ① カリキュラムの点検、見直し

教務部会において、2013年度より副専攻を導入するとともに現行の16種類のセット科目を見直し、現代総合科目として4系統（「コミュニケーション系」、「キャリア形成系」、「自然生命系」、「歴史文化系」）に分けて学生が幅広い分野から学べるようなカリキュラムに改編しました。

特に、「コミュニケーション系」については、各語学科目の名称、種類、レベル等を統一し、学生にわかりやすいカリキュラムに編成しました。また、各学科の3ヵ年計画に基づいたものとして、2013年度より3学科においてコースが改編され、それに併せてカリキュラムの改編を行いました。

各学科の改編後のコース名は、次の通りです。  
・仏教学科：現代と仏教コース、文化美術コース、仏教思想コース

・国際文化学科：現代アジアコース、欧米文化コース、文化環境コース  
・人文情報学科：情報デザインコース、メディアクリエーターコース、情報文化コース、デジタルライブラリーコース

#### ② 教職支援センターの取り組み

これまでに培ってきたノウハウやアドバイザーによる助言により、学生のボランティア活動が定着し、非常勤講師やボランティアとして学校現場で活躍しながら学ぶ学生を増やすことができました。

また、地域連携事業として地域の子どもを対象にした講座「おたにキッズキャンパス」を年8回開講しました。本学以外では宇治市内でも活動を行いました。

他、採用試験合格に向けた講習会など学習の機会を増やした結果、教育・心理学科1期生から教員として11名、常勤講師として27名が教職の道に進むこととなりました。

#### ③ 国際化教育の取り組み

2012年度は計画していた語学研修、文化研修6研修全てを実施することができました。2012年度が初めての開講となった「カナダ文化研究・実践英語」は担当教員、トンプソン、リヴァース大学とも連絡を密に取り合い、万全な状態で学生を送り出せるよう準備を整えました。また、学生への事前指導としてトンプソン、リヴァース大学の国際交流担当者や外部からの講師を招き、講義を行ったことで、学生は研修における不安を解消し、海外における正しい知識を身につけたうえで、安全に研修へ参加することができました。

グローバルスクエアでは、留学相談の他、2013年2月12日・15日にセミナーハウス等を会場として韓国の京畿道大学校観光教育院研修団との短期学生交流を実施しました。

また、ハンガリーの学術交流協定校エトヴェシ・ローランド大学に本学東館見学教授を派遣し、2013年2月23日・3月7日に日本仏教史の集中講義「鎌倉仏教の歴史における前提としての日本仏教史」―仏教の歴史における「我執」と「無我」との相克―を行いました。今回の授業は日本語で行われたため、初めての試みとして本学留学生（修士課程）が通訳として同行しました。

#### ④ 学生支援に関する取り組み

・学生支援  
配慮が必要な学生対応として、指導教員と学生支援課間の情報共有を密にする仕組みを構築しました。また、各事務室間では「障がい学生担当者会議」を月1回の頻度で開催し、情報共有することにも課題の整理、検討を行いました。

奨学金については、制度の周知を強化するために「2012年度奨学金・支援制度の紹介」を作成し、年度初めに指導教員から学生に配付しました。また、雲井昭善名誉教授からの寄付財源とした奨学金「雲井奨学金」を2013年度から運用できるよう制度を整備しました。  
・キャリア支援  
就職ガイダンスなど就職支援企画の実施にあたり、全教職員に対して就職支援企画を告知し、学生への周知を依頼するとともに、学生の希望進路及び活動状況の確認、情報共有を行うため、文学部卒業年次生の指導教員に対して、年3回のヒアリングを行っています。また、保護者との連携を図るため、現在就職環境や本学の就職支援内容等を紹介する「保護者のための就職ガイドブック」を発行するとともに、全国父母見学懇談会において、「就職支援説明会」を実施しました。

### ⑤ 研究に関する事業

#### ① 聖教編纂室における研究活動の推進

宗祖親鸞聖人750回御遠忌記念事業の一環としての取り組みであります。真宗大谷派からの委託事業「聖教編纂事業」については、「坂東本」教行信証「編纂事業」、「禿庵本」選択集「編纂事業」とも、9月末に全原稿を提出することができました。

学内においては、宗祖親鸞聖人750回御遠忌記念事業本部委員会を10月に開催し、2事業が完了したことを報告し、委員会を解散しました。なお、委託事業による研究成果は、東本願寺より、「顕浄土真実教行証文類」翻刻篇、附録篇、「二」選択本願念佛集「影印翻刻・解説」として、2012年12月に発刊されました。

#### ② 外部資金による研究活動

本学では、真宗総合研究所を中心に外部資金による研究活動の推進に取り組んでいます。2012年度科学研究費助成事業（科研費）

では、本学教員を研究代表者とする研究課題が19件、研究分担者とする研究課題が15件採択されました（継続分を含む）。また、若手研究者の育成等、研究活動を推進していくために、本学より科研費に応募できる研究者の範囲を拡張し、2013年度新規応募件数は33件となりました。

その他、文部科学省の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」の区分Aに「教育力を高め、主体的な学修を実現する授業収録配信システム整備」が採択されました。

### ⑥ 社会への開放

#### ① 生涯学習講座

2012年度前期の本学生涯学習講座は、開放セミナー1講座、紫明講座4講座、京都学講座1講座、博物館セミナー1講座を開講しました。

学外団体への提供講座については、大学コンソーシアム京都に京カレッジ京都力養成コース1講座を提供しました。また、日本セカンドライフ協会に協力して、「大谷大学と東本願寺の歴史」をテーマとした特別講座を開講し、併せて学内施設見学・東本願寺の見学を行いました。

2012年度後期は、開放セミナー3講座、紫明講座4講座を開講しました。

学外団体への提供講座については、昨年に続き、京都市企画「京あるき in 東京2013」に1講座を提供し、東京での受講層開拓を行いました。

本学主催の地域交流事業については、1月15日と2月12日に大谷幼稚園を会場に大谷大学幼稚園開放セミナーを合計2講座開講しました。

#### ② 博物館

毎年、1回の特別展と4回の企画展を実施しています。博物館では、2011年の宗祖親鸞聖人750回御遠忌に併せて、2010年から2011年の3年連続で親鸞聖人をテーマとする特別展を企画しました。その最終年度となった2012年度は、「親鸞―真宗開闢―」と題し、親鸞聖人および真宗本廟に関わる宝法物を関係機関より借用し展示しました。特に、今年度特別展においては、関係各位のご尽力により、真宗大谷派所蔵「国宝坂東本」教行信証の展示を行うことができました。

### 2012年度決算

2012年度決算は、公認会計士および監事の監査を経て、2013年5月24日に開催された学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において承認されました。

本学の会計は、公認会計士による監査を定期的に受けて処理されています。

また、計算書類は、「学校法人会計基準」に従って、「資金収支計算書」「消費収支計算書」「貸借対照表」を作成しており、毎年、決算承認後、文部科学大臣に届け出ています。

### 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度において現実に収納し、また支払った資金の収入と支出について、その顛末を明らかにするものです。

資金収入には、授業料や入学検定料、寄付金、国からの補助金のほか、次年度の授業料等の前受金等が含まれます。

2012年度の補助金収入には授業収録配信システム構築のための691万円余の交付が含まれています。

資金支出には、学生の教育研究および学生生活にかかわる教育研究経費や教職員の人件費の他に、学生募集の広報等の管理経費と、施設や設備関係支出があります。教育研究経費には、就職支援のためや、教職・実習支援に関する経費の支出が含まれています。施設関係支出では、学生生活の環境改善およびバリアフリー化のため、響流館講堂棟な

どのトイレの改修の支出がありました。

### 消費収支計算書

消費収支計算書は、授業料や補助金などの収入(帰属収入)と、施設設備の減価償却額や資産除却額などを含む、その年度に消費する支出(消費支出)との内容および均衡の状態を明らかにするものです。

### 貸借対照表

学校法人の目的である教育研究活動には、施設や設備など膨大な運用財産

■ 2012年度資金収支計算書(2012年4月1日～2013年3月31日) (単位 円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,822,480,750	人件費支出	2,673,619,207
手数料収入	98,189,810	教育研究経費支出	1,042,653,884
寄付金収入	25,270,880	管理経費支出	412,931,538
補助金収入	468,728,970	借入金等利息支出	18,664,800
国庫補助金収入	468,448,000	分担金支出	12,000,000
地方公共団体補助金収入	280,970	借入金等返済支出	111,100,000
資産運用収入	149,219,436	施設関係支出	211,747,422
事業収入	18,576,733	設備関係支出	176,492,808
分担金等収入	135,000,000	資産運用支出	610,927,000
雑収入	146,937,751	その他の支出	84,140,235
前受金収入	679,545,000		
その他の収入	275,608,242		
資金収入調整勘定	△ 771,345,669	資金支出調整勘定	△ 53,614,263
前年度繰越支払資金	6,935,084,847	次年度繰越支払資金	6,682,634,119
収入の部合計	11,983,296,750	支出の部合計	11,983,296,750

■ 2012年度消費収支計算書(2012年4月1日～2013年3月31日) (単位 円)

消費収入の部		消費支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	3,822,480,750	人件費	2,657,897,817
手数料	98,189,810	教育研究経費	1,530,063,047
寄付金	29,127,173	(うち減価償却額)	(485,210,590)
補助金	468,728,970	管理経費	436,000,662
国庫補助金	468,448,000	(うち減価償却額)	(23,061,124)
地方公共団体補助金	280,970	借入金等利息	18,664,800
資産運用収入	147,720,519	分担金	12,000,000
分担金等	135,000,000	資産処分差額	2,313,155
事業収入	18,576,733		
雑収入	165,986,880	消費支出の部合計	4,656,939,481
帰属収入合計	4,885,810,835	当年度消費支出超過額	313,034,444
基本金組入額合計	△ 541,905,798	前年度繰越消費収入超過額	3,479,763,590
消費収入の部合計	4,343,905,037	翌年度繰越消費収入超過額	3,166,729,146

を必要とします。貸借対照表は財産保有の状況を表し、財産が適正に維持管理されているかどうかを示すものです。なお、当学園全体の貸借対照表はホームページで公表しています。

### 2013年度予算

2013年度予算は、学校法人真宗大谷学園理事会・評議員会において2013年3月25日に承認され、新学期を迎え在学生数が確定した後の、7月18日に開催された理事会・評議員会において補正予算が承認されました。

2013年度はUNETの維持コストの削減をめざし、メールシステムを学内での運用からクラウド利用へと切り替える費用を計上しています。

また、キャリア支援では、現在の厳しい就職環境に対応するための取り組みを推進し、各種ガイダンス、セミナーの開催等の予算を計上しています。

2011年度に雲井昭善名誉教授からいただいた寄付金により「雲井奨学金」を創設し、本学の学びに強い意欲を持ちながら、経済的事情により修学が困難な学生に学費の一部として奨学金を給付することを計画しています。



# 教育後援会だより

## 「父母兄弟懇談会」について

「父母兄弟懇談会」とは、教育後援会役員ならびに大学執行部のほか、各関係事務部門の職員が出席して、大学の現状を説明し、個別の相談にも応じる懇談会です。また、大学出席者とご父母兄弟の皆さま相互の親睦を図っていただくため、懇親会等も開催いたしております。

## 「信越地区父母兄弟懇談会」開催報告

7月15日(月・祝)、16日(火)に、信越地区在住のご父母兄弟を対象にした「信越地区父母兄弟懇談会」が開催されました。

15日(月・祝)は長野県長野市の「ホテルメトロポリタン長野」において、また、16日(火)は新潟県新潟市の「チサンホテル&コンファレンスセンター新潟」において行われました。

懇談会は教育後援会役員出席のもと、学長ならびに学監・事務局長より、大学の理念・教育目標、教育研究活動の現状等について報告がなされました。関係職員からは授業単位の登録方法や履修状況について、また、奨学金制度、課外活動、健康サポートなど学生生活のサポート体制について、さらに、進路就職状況や支援体制等についてなど、具体的な事例を提示しながら説明を行いました。その後の個別相談コーナーでは職員が一人ひとりの相談に応じました。

懇談会に引き続き催された懇親会では、その地域の教育後援会顧問や同窓会

役員の方々にもご参加いただき、会場内はご歓談で盛り上がり、なごやかなひと時を過ごしていただくことができました。なお、今後の開催につきましては左記のとおりです。今後開催されます該当地区の皆さまには、多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

## ◆信越地区父母兄弟懇談会の様子



## ◆中国地区父母兄弟懇談会 開催日程

2013年 12月7日(土)	リーガロイヤルホテル広島 (広島市)
2013年 12月8日(日)	ラヴィール岡山 (岡山市)

## 教育後援会

大谷大学教育後援会は、全在学生の保証人が会員となって組織され、大谷大学の教育・研究の発展と、学生生活環境の整備・改善に支援を行っています。また、会員相互並びに会員と大学との交流を深めることも目的に、各種の活動を行っています。なお、毎年、役員会・評議員会を開催して様々な事業計画を企画・推進しています。

→ 詳しい情報は… 大谷大学ホームページ <http://www.otani.ac.jp/kouyuu>

# 教育振興資金(募金)について

このたびは、教育振興資金局の募金活動にご協力いただき、ありがとうございます。ご寄付いただきました資金は、教育・研究の充実に努めるための環境整備に充ててまいります。

また、本学は文部科学大臣から、特定公益増進法人の証明(所得控除制度)、並びに税額控除に係る証明(税額控除制度)を受けておりますので、寄付者(個人)の選択により、どちらか一方の税法上の優遇措置を受けることができます。

今後も引き続き、募金のお申し込みを受け付けておりますので、ご支援賜われますよう、何卒よろしくお申し込みあげます。

なお、2013年2月1日から2013年7月31日までの間、ご寄付いただいた方々のご芳名は次のとおりです。厚く御礼申し上げます。

## 教育振興資金寄付者(敬称略)

岩本 三郎 (京都府)	舟橋 尚哉 (愛知県)
奥野 高雄 (滋賀県)	三松 高一 (福岡県)
田中 康進 (大阪府)	匿名6名
田宮 経夫 (新潟県)	(有)石間企画事務所(東京都)
暉 了 (新潟県)	(株)フラットエージェンシー(京都府)
西野 匠 (京都府)	善行寺「服部浩善」(岐阜県)
西本 茂岐 (和歌山県)	匿名1名
林 弘巳 (長野県)	

● お問い合わせ先  
教育振興資金事務局

〒603-8143  
京都市北区小山上総町 大谷大学総務部校友センター内  
TEL: 075-411-8124  
FAX: 075-411-8157  
E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

◆ 件数 20件  
◆ 寄付金総額 2,600,000円

# 新たな学びと向き合う

最近、大学で日本史の学科が堅調に志願者を集めているという新聞記事を目にした。過去を知ることが、今を生きる我々にとって有意義であると思うので、喜ばしい現象である。一方、私が専門とする東洋史は人気がない。日本史を考えていく上で、中国との関係は極めて重要なことから、もう少し東洋史に興味を持つ人が多くてもよさそうなものである。私自身、日本史も好きだが、最終的に東洋史を選んだ。だから、日本史が好きな学生の東洋史への関心の低さが理解できなかった。

ところがである。先日、第1学年向けの授業の最後に、受講して印象に残ったことを書いてもらったところ、「東洋史のことをあまり知らなかった」「色々知ってみると東洋史も面白い」といった声が多くあつた。関心が低いのは、知る機会がなかったせいでもあるようだ。高校世界史の教科書は各国史の寄せ集めの感が強い上に、授業は西洋史中心に進む場合が多いそうで、中には東洋史をほとんど学んでいない人さえいるのだ。別にそんな状況を憂いているわけではない。実を言うと、私は高校で世界史

を履修していない。関係する本を読んではいしたが、東洋史に気持ちがいっていったのは、大学入学後に色々勉強してみたいからである。だから、学生に対して、高校で世界史をしっかり勉強しておいてほしいなどと期待していない。高校で学んでいなくても、大学で知識を深めていけばよい。新たに知っていくうちに、面白さが分かるということもあるのだから。歴史以外にも同じことだろう。高校での基礎があつて、大学の学びがあるのだから、高校での学びが重要であるの言うまでもない。ただ、その上で大学で出会った新たな分野にも、どんどん関心を広げていってほしい。狭い範囲に限定せず、色々なことに興味を持ってもらいたい。あまりなじみのなかった分野に向き合ってみることで、面白い発見があるかもしれないのだ。



歴史学科 准教授  
**中浦 典弘**  
 専門分野 / 東洋史 (中国中世史)

時代を照らす仏教のことば

えんそく  
 仏法厭足なければ、

法の不思議をきく。

『蓮如上人御一代記聞書』

## 編集後記

今回のじんげんassileでは「赤レンガ100周年記念」ということでさまざまなイベント等を紹介させていただきました。また「谷大ライブ」の学生へのインタビューを通じて、普段の学生生活ではなかなか経験できないことに学生が挑戦しているのだと感じました。彼らの挑戦が成功することを願っています。  
 (編集担当)